

事業報告 1



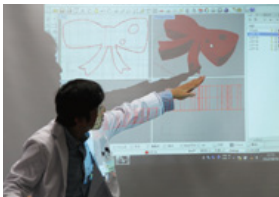
京都市産業技術研究所 市民オープンセミナー

～ 京都のものづくり技術を体験！～

開催レポート

■平成25年8月3日(土)

主催：京都市，共催：京都ものづくり協力会



「京都市産業技術研究所 市民オープンセミナー」が8月3日(土)に開催されました。9回目となる今年は、昨年に続き京都リサーチパーク(KRP)のイベント“KRP-WEEK2013”に併せて開催したこともあり、過去最高の703名の方にご来場いただきました。

今年は、手機織りや、金めっきストラップ作り、漆を使った絵付けなどの研究所内各チームによる恒例の体験コーナーに加え、新たにシルクを染めてミサンガを作る体験を実施。多くの親子連れが真剣な表情で取り組み、会場は楽しそうな笑顔であふれていました。また、展示・実演コーナーでは、金属を溶かし鋳型に流し込む実演や、人の動作でロボットを動かすゲーム、全国の公設試験研究機関による陶磁器の展覧会「陶&くらしのデザイン展 2013」など、普段はなかなかご覧いただけない産業技術を、熱心に時間をかけて見学される来場者の姿が多く見られました。

さらに、初めての試みとして、「京都の知恵のお取り寄せ」ブースをKRP4号館に出展しました。これは、伝統産業から先端産業までの幅広い地元企業等で構成する「京都ものづくり協力会」の加盟事業者が、絞り染めのファッション小物や京焼・清水焼陶磁器、おりん(仏具)や竹工芸品、清酒などをPR・物販するものです。これまでとは違った層の方々に足を運んでいただくことができ、京都ならではのこだわりの逸品を多数お買い上げいただきました。



体験や展示・実演コーナー等を通して、京都のものづくり文化を支えてきた当研究所の活動をご理解いただけたかと思えます。来年もご家族お友達で楽しめるオープンセミナーを準備し、皆様のご参加を心からお待ちしております。



京都ものづくり協力会設立総会・交流会のご報告 ～西陣織酒器袋と京焼・清水焼猪口の「マイ猪口」で乾杯～



総会・交流会



マイ猪口の制作風景（陶磁器研究会）

去る4月19日に「京都市染織試験場運営協力会」と「京都ものづくり協会」が統合され、新たに「京都ものづくり協力会」が設立されました。今後はこの「京都ものづくり協力会」のもとに12の研究会在結集することにより、従来の単独事業に加えて、相互連携による新たな事業展開が推進できる体制が整いました。

設立総会及び交流会は、多数の会員様のご参加のもと無事に終了。総会では全ての議案が承認され、交流会では、設立記念品の「マイ猪口」（西陣織酒器袋と京焼・清水焼猪口のセット）による京都・伏見の清酒で乾杯を行うなど、大いに賑わい、スタートに相応しい交流会となりました。当研究所では、研究会試作事業や異業種の技術交流を進め、「京都ものづくり協力会」発の新たな京都ブランドの創出に挑戦してまいります。



マイ猪口

知恵の最前線 レポート⑥

知恵産業融合センターがご支援している企業を特集。企業の技術や製品、今後の抱負などについてご紹介します。

京都市上京区 宮階織物株式会社

『見ても着ても楽しめるきものづくり
—— 着物の新境地開拓』

所在地：京都市上京区笹屋町通六軒町西入笹屋五丁目311番地
TEL：075-462-3030 FAX：075-462-3033
事業内容：西陣織着物・帯の製造、卸



代表取締役社長
宮階 有二氏

図柄が浮き出て見える！ ～3D風柄表現のきものの開発に成功～

古来から、脈々と続いてきた西陣織は、先に染めた糸を使って文様を織り出す織物のことで、その技術は世界最高とされています。その文様についても、金糸をふんだんに使った豪華絢爛なものから、^{かすり}縞模様や^{しま}縞模様等幅広い文様を有する西陣織は、多くの人の心を引き付ける織物です。

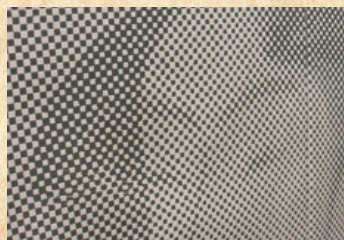
宮階織物株式会社では、今までにない、見る人にインパクトのある斬新なデザインのきものができないか試行錯誤する中で、トリックアートのように図柄が浮き出て見え、見る人に強力に印象づけられる新たなデザインのきものを開発することに成功しました。

人間の「錯視」の原理にヒントを得た、地紋用と柄用の2種類のデザインを同時にひとつのきものに表現できる「画像加工ソフトウェア」を京都市産業技術研究所と共同開発し、これを活用することで、「近くで見ると地紋が見え、遠くから見ると柄が浮き出て見える織の3D風柄表現のきもの」を作ることが可能となりました。

この技術により、近くでは、市松模様の地紋が綺麗に並んでいるように見えつつ、離れて見ると大きな浮世絵や大きなバラが浮き出て見える



『市松にポペンを吹く娘』



拡大図

きものなど、目でも楽しむことができるきものを消費者に提供することができるようになり、国内外の展示会等でも好評を博し、実際に販売に繋がってきています。

「驚き」と「感動」をきものに ～「ファッション」としてのきもの～

昭和27年に宮階織物株式会社として創業。西陣の地で西陣織着物・帯の製造、卸を手掛け、数多くの色柄のきものを有する西陣有数の織物会社です。洋装が主流になっている中で、きものを「ファッション」として捉え、流行や技術、販路展開など様々な角度からきものあり方を模索し、消費者に楽しんで貰えるような新しいきものづくりを進めています。図柄が浮き出るように見えるきものに加え、中南米の柄を透かして^し紗で表現したきものや歩くと図柄が動いて見えるきものなど、見る人が思わず釘づけになり、それでいて一度着てみたいと思わせるきものを数多く開発されています。同社の宮階専務曰く『一着一着のきものに「驚き」と「感動」を与えたいんです。技術・技法にはこだわりつつ、そのきものを見ただけで、その良さが伝わるきものを作り続けたいんです。人の印象に強く残るきもの、そこから始まると思っています。きもの専門誌ではなく、あえて、ファッション雑誌等に目を通すように心掛けていますよ』と、常に消費者と時代のニーズを意識するその姿勢が、新たなものづくりへの原動力になっています。

長い歴史に裏打ちされた確かな技術と経験を武器に、多くの人の心を魅了するきものづくりに向けた宮階織物株式会社の新たな挑戦は続きます。



『瑞兆衣訪問着』